



# アプリケーションデータをリストアする Cloud Backup

NetApp  
July 18, 2022

# 目次

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| アプリケーションデータをリストアする .....       | 1 |
| Oracle データベースをリストアします .....    | 1 |
| SQL Server データベースをリストアする ..... | 2 |

# アプリケーションデータをリストアする

## Oracle データベースをリストアします

Oracle データベースは、同じ SnapCenter サーバホスト、同じ SVM、または同じデータベースホストにのみリストアできます。RAC データベースの場合は、バックアップが作成されたオンプレミスノードにデータがリストアされます。

制御ファイルのリストアを含むフルデータベースのみがサポートされます。アーカイブログが AFS 内にはない場合は、リカバリに必要なアーカイブログが格納されている場所を指定する必要があります。

### • 手順 \*

1. Cloud Manager UI で、\* Backup & Restore \* > \* Applications \* の順にクリックします。
2. [\* フィルター条件 \*] フィールドで、フィルター \* タイプ \* を選択し、ドロップダウンから [\* Oracle\*] を選択します。
3. リストアするデータベースに対応する **View Details** をクリックし、**Restore** をクリックします。
4. [リストアタイプ] ページで、次の操作を実行します。
  - a. 制御ファイルとフルデータベースをリストアする場合は、「\* 制御ファイル」を選択します。
  - b. リストアとリカバリに必要な場合は、「\* データベースの状態を変更」を選択して、データベースの状態をリストアとリカバリ処理の実行に必要な状態に変更します。

データベースの状態は、高いレベルから順に、オープン、マウント済み、開始、シャットダウンがあります。リストア処理を実行するために、データベースの状態を高いレベルから低いレベルに変更する必要がある場合は、このチェックボックスをオンにします。リストア処理を実行するために、データベースの状態を低いレベルから高いレベルに変更する必要がある場合は、このチェックボックスをオンにしなくても自動的に状態が変更されます。

データベースが OPEN 状態で、リストアのためにデータベースが MOUNTED 状態である必要がある場合、データベースの状態はこのチェックボックスをオンにした場合にのみ変更されます。

1. Recovery Scope ページで、次のアクションを実行します。
  - a. リカバリの範囲を指定します。

| 状況  | 手順   |
|---|--|
| 最後のトランザクションまでリカバリする場合                     | [* すべてのログ *] を選択します。   |
| 特定の System Change Number (SCN) までリカバリする場合 | [* Until SCN (System Change Number) ] を選択します。                  |
| 特定の日時までリカバリする必要がある                        | [* 日付と時刻 *] を選択します。<br><br>データベースホストのタイムゾーンの日付と時刻を指定する必要があります。 |

| 状況                | 手順   |
|-------------------|--|
| リカバリが不要である場合      | 「* リカバリなし *」を選択します。  |
| 外部アーカイブログの場所を指定する | アーカイブログが AFS 内にはない場合は、リカバリに必要なアーカイブログが格納されている場所を指定する必要があります。 |

- b. リカバリ後にデータベースを開く場合は、チェックボックスを選択します。

RAC セットアップでは、リカバリに使用される RAC インスタンスのみがリカバリ後に開きます。

2. 詳細を確認して、\* リストア \* をクリックします。

## SQL Server データベースをリストアする

SQL Server データベースは、同じホストまたは代替ホストにリストアできます。ログバックアップのリカバリおよび可用性グループの再シードはサポートされていません。

### • 手順 \*

1. Cloud Manager UI で、\* Backup & Restore \* > \* Applications \* の順にクリックします。
2. [\* フィルター条件 \*] フィールドで、フィルター \* タイプ \* を選択し、ドロップダウンから \* SQL \* を選択します。
3. 「\* 詳細表示 \*」をクリックすると、使用可能なすべてのバックアップが表示されます。
4. バックアップを選択し、\* リストア \* をクリックします。
5. データベースファイルのリストア先を選択します。

| オプション                          | 説明  |
|--------------------------------|---|
| バックアップが作成されたホストにデータベースをリストアします | バックアップを作成した SQL Server にデータベースをリストアする場合は、このオプションを選択します。 |

| オプション                | 説明   |
|----------------------|--|
| データベースを代替ホストにリストアします | <p>バックアップを作成したホストと同じまたは別のホストの別の SQL Server にデータベースをリストアする場合は、このオプションを選択します。</p> <p>ホスト名を選択し、データベース名を指定し（オプション）、インスタンスを選択し、リストアパスを指定します。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div> <p>代替パスに指定するファイル拡張子は、元のデータベースファイルのファイル拡張子と同じにする必要があります。</p> </div> </div> <p>[ リストア範囲 ] ページに [ データベースを別のホストにリストアする * ] オプションが表示されない場合は、ブラウザキャッシュをクリアします。</p> |

6. [ \* リストア前オプション \* ] ページで、次のいずれかのオプションを選択します。

- [ リストア時に同じ名前でデータベースを上書きする ] を選択して、同じ名前でデータベースをリストアします。
- データベースをリストアし、既存のレプリケーション設定を保持するには、「 \* SQL データベースのレプリケーション設定を保持 \* 」を選択します。

7. [ リストア後のオプション \* ] ページで、追加のトランザクションログをリストアするためのデータベース状態を指定するには、次のいずれかのオプションを選択します。

- 必要なすべてのバックアップを今すぐリストアする場合は、[ \* Operational 、 but unavailable ] を選択します。

これはデフォルトの動作で、コミットされていないトランザクションをロールバックすることでデータベースを使用可能な状態にします。バックアップを作成するまで追加のトランザクションログはリストアできません。

- コミットされていないトランザクションをロールバックせずにデータベースを非稼働状態のままにするには、[ **Non-operational, but available** ] を選択します。

追加のトランザクションログをリストアできます。データベースはリカバリされるまで使用できません。

- データベースを読み取り専用モードのままにするには、「 \* 読み取り専用モード 」と「 使用可能 \* 」を選択します。

コミットされていないトランザクションはロールバックされますが、ロールバックされた操作がスタンバイファイルに保存されるため、リカバリ前の状態に戻すことができます。

[ ディレクトリを元に戻す ] オプションが有効になっている場合は、さらに多くのトランザクションログがリストアされます。トランザクションログのリストア処理が失敗した場合は、変更をロールバックできます。詳細については、SQL Server のマニュアルを参照してください。

1. 詳細を確認して、 \* リストア \* をクリックします。

## 著作権情報

Copyright © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. 米国で印刷されていますこのドキュメントは著作権によって保護されています。画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体などの機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。テープ媒体、または電子検索システムへの保管-著作権所有者の書面による事前承諾なし。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、いかなる場合でも、間接的、偶発的、特別、懲罰的、またはまたは結果的損害（代替品または代替サービスの調達、使用の損失、データ、利益、またはこれらに限定されないものを含みますが、これらに限定されません。）ただし、契約、厳格責任、または本ソフトウェアの使用に起因する不法行為（過失やその他を含む）のいずれであっても、かかる損害の可能性について知らされていた場合でも、責任の理論に基づいて発生します。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、またはその他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1 つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許により特許、その他の国の特許、および出願中の特許。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7103（1988 年 10 月）および FAR 52-227-19（1987 年 6 月）の Rights in Technical Data and Computer Software（技術データおよびコンピュータソフトウェアに関する諸権利）条項の（c）（1）（ii）項、に規定された制限が適用されます。

## 商標情報

NetApp、NetAppのロゴ、に記載されているマーク <http://www.netapp.com/TM> は、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。